

## 第4回福山駅前デザイン会議を開催

日時：2019年(令和元年)6月10日(月)15時～17時  
場所：福山市役所 大会議室

「エリア価値を高める民間プロジェクトと公民連携プロジェクト」をテーマに、福山駅前アクション会議や公園利活用促進事業などについて、意見交換を行いました。今年度のデザイン会議などの議論を踏まえ、今年度中に(仮称)デザイン計画を策定する予定です。

### 産業をつくる

- まちなかで経済が上手く回る状態を作らないといけない。顧客を生み出さないと、いくらコンテンツを提案しても持続しない。
- 文化、歴史など先人が作ってきたものを駅前で産業化すれば、雇用を生むことが出来る。
- 重要なのは資金。事業として成り立つかをチェックする機能、教育する機能を作ることも大事。資金を用意できる仕組みがあると起業しやすい。

### 公園の利活用

- 住みたくなる場所を作ることが大事。子育て世代には公園が必要。今後、駅前周辺にマンションがたくさん出来るのであれば、駅前広場や城が公園のような空間になるべき。
- 公園が質の高いレベルで活用されていくと、面的に効果が出てくる。質のコントロールをどういうマネジメント体制で行っていくかを考えなければならない。
- 公園だけでなく、遊休地や駐車場などの土地も活用できれば、より連携の取れた取組となるのではないかな。

### 公民連携プロジェクト

- 民間プロジェクトに何を期待するのかを行政側・市民側がきちんと基準を持つことが大事。
- 公民連携で大事なものは、何をやるかではなくて誰がやるか。誰もやったことがない分野で事業を考えられる人間かどうか。それと、事業の採算、計算が出来る人間なのか。これが出来ない人間がやると事業が破綻する。この2つを出来る事業者であることが大事。

### 働く場所

- 賑わいを取り戻すのに有効な手立ては、駅前に働く場所をつくること。格好いいオフィスが駅前にあれば人材が集まる。格好良く働けるオフィス環境が駅前に生まれると福山は変わる。
- 働く場所だけでなく、福利厚生も含めた働く環境をつくる必要がある。

### 駅前広場の議論

- 多様な世代が駅前周辺にアクセスできるようにするには、車と歩行者の棲み分けを行わなければならない。
- 駅前周辺に居住人口が増加することを考えると、駅前広場にまちなか居住に必要な機能を作るべきだ。
- 交通結節点としての機能は必要。駅前周辺エリアとつながるような議論が必要。

### 広告デザイン

- 色やデザインの方向性についても推奨するものがあれば良い。
- 今後、色々なものが出てくる中で、イメージがばらけない様にコンセプトワードがあると良い。

### 安心安全なまちづくり

- 元町エリアで行っているゾーン30の取組によって、車のスピードが抑制され歩行者に優しい空間になっている。
- 駅前交番はもっと分かりやすい場所にあると良い。地元の方だけでなく観光客の人に分かりやすい場所にするべきだ。

### まとめ

- 行政が出しているビジョンに基づき、民間がクオリティの高い民間投資を行い、道路空間・公園を使いこなして駅前周辺を楽しいまちに変えていくことが大事。
- 民間のプロジェクトが賑わいを作り出すことで、どういう価値が高まっていくのかというストーリーをデザイン計画に書くと良いだろう。
- 駅前の再生は、駅前だけを変えることだけではない。周囲の再生とともにある。駅前再生と周囲の再生がどう繋がっていくかを議論するべきだ。
- まちのためになる民間投資のあり方とは何か。それは、建物がどうまちと接するかである。例えば、ビルの1階部分に美味しいコーヒーショップが出来ると、まちへのしみ出し方を考えるのがまちの魅力につながる。
- アクション会議では、民間投資のあり方を議論する。市民や民間が参加してともにエリアを作っていくことが、持続的な民間投資につながる。投資をしたい人、ボランティア、新しい提案がある方などは是非参加して欲しい。

